

Gm0 調合液希釈水と生理食塩水の作り方

Gm0 は原液の状態では真水とほぼ同等の塩分濃度です、千倍に薄めてご利用ください
AbyssalFeel の空き容器(噴霧される霧の細かさがポイントでその調整がなされております)を利用して家庭菜園や環境育成の深層水噴霧用として活用されてください。

生理食塩水=人体の水:0.9 パーセントの食塩水ですが、これはおおざっぱに言って、1リットル(1キログラム)の水に9グラムの食塩を混ぜればできあがりです(厳密な化学や生物関係の実験に使うとかだったら、正しい方法を調べてください)。

ただ生理食塩水は雑菌の繁殖が効率よくおこります、衛生状態には気をつけなければいけません。よごれた水を粘膜に噴霧するのはイヤですからね。

精製水や蒸留水を購入するのもいいですが、めんどろですしおカネがかかります。
水道水をそのまま使うことは推奨しません。水道水に微量の有機物がまざっていると、塩素と反応をおこして、いわゆるトリハロメタンのたぐいが出てしまうからです(それがなにかわるい影響があるかどうかは別にします)。沸騰直後がいちばんトリハロメタンの量が多く、ほぼ完全に無くすには1時間ぐらいの沸騰が必要といわれます。

しかし、10分程度も沸騰させていると、もとの水道水よりは有意に量が少なくなるといわれています。

そのため、10分以上の沸騰というのがお勧めできます(別に強火じゃなくてもいいから、できれば15分ぐらいがいいと思います)。塩素やトリハロメタンも飛んでしまうし、殺菌にもなるからです念のための殺菌ということで、沸騰させることをお勧めします(こうした水は飲み水にも適しています。規制のゆるいミネラルウォーターよりも、水道水の湯冷ましのほうが安心です)。

追記: 井戸水や自然の湧き水・雨水など、簡易水道の地域は。飲める水だからだいじょうぶ、なんてことはないです。飲み水は胃で殺菌されるので同じに考えてはだめです。じつは水道水でも、完全に無菌かというところでもないの念のため。

いったん沸かしたほうがいいと思います。やかんなどで沸騰させた湯冷ましを使ってください。沸騰の時間は10分以上のほうがいいです。できればそのまま凍らせてご利用の際に溶かして使用すると水エネルギーの効率が良くなる傾向があります



Gm0 ご利用は調味料用や化粧水用ミニスプレーボトルに小分けして、それぞれのシーンで無菌状態で原液添加利用をお勧めします
卵焼きの場合も調理寸前に添加ください(これは東京の有名な料理店のレシピらしいです)

残留塩素を除去する方法は色々ありますが、その中でご家庭でできる方法をいくつか紹介しますので、残留塩素が気になる方は一度試してみたいかがでしょうか。

1. 沸とうさせる	沸とうさせると、残留塩素は分解して揮散します。最も簡単な残留塩素除去方法です。沸とうしてからしばらくは加熱を続けてください。市販されている電気ポットには、カルキ抜き機能がついているものがあります。
2. 日光をあてる	日向水(ひなたみず)という言葉を目にしたことがあるでしょうか。水道水には、ご存知のとおり残留塩素が含まれています。そのため金魚などの生物を飼育する際は、川などの水環境と同じ状態に近づけるため、残留塩素を除去する必要があります。水道水に含まれる残留塩素は、日光の紫外線により分解、揮散するため、半～1日程度日光に当てておけば水道水を飼育用に使用することができます。カルキを抜くための錠剤(ハイポ)が市販されているので、こちらを使用する方法もあります。
3. レモンをしぼる	レモンに含まれるビタミンCには還元作用があるため、酸化作用のある残留塩素と反応して分解することができます。ビタミンCが含まれている食品ならこの反応で残留塩素が除去されるので、特にレモンにこだわる必要はありません。喫茶店等で出てくるレモン水は、残留塩素を除去する効果とレモンの風味で水に爽快感をつける効果の2つを同時にねらったものといえます。
4. 緑茶にとおす	緑茶に含まれるカテキンには還元作用があるため、酸化作用のある残留塩素と反応して分解することができます。レモンをしぼるのと同じような手軽さで、残留塩素を除去することができます。
5. 活性炭にとおす	活性炭の表面には目では見えない小さいすき間が空いていて、そのすき間に色々なものを取り込む性質があります。空気中や水中のにおい物質を吸着する性質から、ご家庭において脱臭剤として使用されている方もみえるのではないのでしょうか。この活性炭は、残留塩素も取り込む性質があるため、水道水を活性炭に通すことで残留塩素のない水が得られます。

残留塩素はやっかいもの？

残留塩素は「やっかいもの」の代名詞で呼ばれることがあります。飲用する際ににおいが鼻についたり、プールやお風呂で肌が荒れるという方もみえるかと思えます。そうした話を聞いたときに、やはり「残留塩素なんて何でそんなものをわざわざ入れるのか」と疑問に思わ

れるのではないのでしょうか。実は残留塩素が必要な理由がちゃんとあるのです。ではどんな理由なのでしょう。

もしも水道水に残留塩素がなかったら、雑菌に侵されているかもしれない水を安心して飲めるでしょうか。その水でまな板や野菜を洗って調理することができるでしょうか。指などを切ったときに傷口を洗ったり、目にゴミが入ったときに水道水で目を直接洗うことができるでしょうか。普段何気なく行っているこうした行動が安心して行えるのは、水道水に雑菌がはびこらないように、塩素剤によって消毒されているからなのです。

塩素剤は浄水場で注入されますが、時間がたつにつれてだんだんとその効果は失われてゆきます。そのため、消毒の効果を確実に持続させるために、残留塩素の濃度(塩素剤の効力が失われていないことを示す値)が給水栓(ご家庭の蛇口等)で一定以上を保つよう適正に管理しなければなりません。特に、水温の高い夏場は雑菌の繁殖能力が高く、残留塩素の消失が激しいため、塩素剤の注入に細心の注意を払わなければなりません。

このように、残留塩素は感染症予防の点から非常に重要なものとなっています。しかし、残留塩素は水を消毒すると同時に、独特のにおいと味をつけてしまうため、飲用の際には水本来のおいしさを失わせるものであるとして近年では敬遠される傾向にあります。こうしたご要望にお応えするために浄水場ではより少ない残留塩素となるように 24 時間体制で監視しています。

<おいしい水とは？>

5. 知っておくと便利な水道まめ知識

おいしい水といっても人それぞれの好みがありますが、1985年に厚生省(現厚生労働省)の発案でつくられた「おいしい水研究会」によると、おいしい水の要件として以下の項目がまとめられています。

蒸発残留物	30~200mg/L	主にミネラルの含有量を示しています。量が多いと苦味、渋みが増し、適度に含まれるとこくのあるまろやかな味がします。
硬度	10~100mg/L	ミネラルのなかで量的に多いカルシウムとマグネシウムの含有量を示しています。硬度の低い水はくせがなく、高いと好き嫌いができます。カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦味を増します。
遊離炭酸	3~30mg/L	溶け込んでいる炭酸分の量を示します。水にさわやかな味を与えるが、多いと刺激が強くなります。
過マンガン酸カリウム消費量	3mg/L 以下	有機物量を示します。多いと渋味をつけ、多量に含まれると塩素の消費量に影響して水の味を損ないます。
臭気度	3 以下	水源の状況により、さまざまなおいがつくと不快な味がします。
残留塩素	0.4mg/L 以下	水にカルキ臭を与え、濃度が高いと水の味をまずくします。
水温	最高 20℃以下	夏に水温が高くなると、あまりおいしくないと感じられます。冷やすことによりおいしく飲めます。体温より20~25℃低い10~15℃が適温といわれています。

項目としてはこれらのものがありますが、やはり「飲みたい！」という欲求が、おいしさを引き立たせてくれる一番の要因だと言えるのではないのでしょうか。